

第5学年*組 国語科学習指導案

指導者 高田 敬子

1 単元名 生き方を見つめて読もう「大造じいさんとがん」

2 単元の目標

- (1) 登場人物に共感しながら友達との話合いを通して作品を読み味わおうとする。
- (2) 登場人物の行動や情景についての描写など優れた叙述を味わいながら読み、登場人物の心情の変化や結び付きを読み取ることができる。
- (3) 慣用的な表現や色彩語などの工夫・意味について理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・登場人物に共感し、友達との話合いを通して、作品を読み味わおうとしている。	・登場人物の行動や様子が描写されている部分に着目し、その描写のありようから心情を想像したり、心情の変化を読み取ったりしている。	・物語の楽しさや面白さを支えている慣用的な表現や色彩語などについて理解している。

4 単元について

(1) 教材観

本教材「大造じいさんとがん」は文学作品として非常に優れ、5年生の教材としてふさわしい作品である。そこで、補助教材としてではなく、じっくりと読み深めさせたいと思い、この時期に単独で扱うことにした。

「大造じいさんとがん」は四つの場面で構成されており、各場面には4年間にわたる大造じいさんと残雪の戦いが1年ごとにまとめて描かれている。一つずつの出来事を丹念に描き、それを次の伏線として設定し、次の年の出来事を積み上げていくという形式をとっているため、登場人物の設定、時間の経過、場所の設定などがつかみやすく、話の展開がわかりやすい構成となっている。また、大造じいさんの心理を絶妙に描き出している細かな行動の描写や秋の空や日の光を中心とした情景描写、仲間を助けるために戦う残雪の巧みな描写は、児童を物語の世界に引き込んでいく。こうした言葉に着目して読み進めることで、残雪を「たかが鳥」と思っていた大造じいさんが、その知恵と頭領らしい態度に心を打たれるまでの心情の変化を深く読み取ることのできる教材である。

本教材で学習を進めることにより、物語の中にちりばめられた情景描写などの表現技法が人物像を暗示的に表現する効果があることをとらえさせることができる。また、大造じいさんの獵師としての厳しい姿は、この時期の児童に人の生き方を見つめさせる良い機会となり、作品に込められたメッセージを自分の言葉でまとめる力を身に付けさせることもできるのではないかと考える。

(2) 児童の実態（児童数*人）

（平成*年*月*日 *人実施）

・物語を読むのは好きですか。	とても好き*人 好き*人 あまり好きではない*人 嫌い*人
・登場人物の気持ちを考えるのは好きですか。	とても好き*人 好き*人 あまり好きではない*人 嫌い*人
・友達と読み取ったことを話し合うのは好きですか。	とても好き*人 好き*人 あまり好きではない*人 嫌い*人
・自分の考えを発表するのは好きですか。	とても好き*人 好き*人 あまり好きではない*人 嫌い*人
（22年度学力診断のためのテスト結果より）	
・叙述に即して内容を読み取ることができる。	正答*人 誤答*人
・人物の気持ちを想像しながら読み取ることができる。	正答*人 誤答*人
・叙述に即して人物の心情を読み取ることができる。	正答*人 誤答*人
・表現の工夫をとらえることができる。	正答*人 誤答*人

児童は、これまでに第4学年「ごんぎつね」で場面の展開を意識した物語の読みを学習しており、また、第5学年1学期の「ちかい」で人物の心情の変化を叙述と関連付けて読むことを学習してきた。これまでの学習で、どの児童も登場人物に直接関係のある語句にサイドラインを引き、そこから気持ちを想像することはできるようになってきている。しかし、情景描写と登場人物の心情をつなげて考えるまでには至っていない。

また、読みの交流に関しては、グループの中で各自の読みを聞き合ったり自分の考えを述べたりすることは好きだが、みんなの前で発表することは苦手だと感じている児童が多いことがわかる。話合いの様子を見ていると、相手の考えに付け足して意見を述べることはできても、異なる意見を交流し合い、話合いを深めていくまでには至っていないのが実態である。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず場面の構成などを読み取らせ、その後、全体で確認していく。その上で、「ううむ。」「ううん。」という言葉に着目させ、その時の大造じいさんの気持ちがどのように変わったのか、また、大造じいさんの残雪に対する気持ちが作品全体のどこで大きく変わったのかを問い、大造じいさんの残雪に対する心情の変化について考えるようにする。

その際、授業と家庭学習の連携を図り、児童全員に家庭学習で自力読みを十分に行わせ、一人一人の児童の読みを把握するようにする。

また、自分の考えをもたせた上で、少人数での対話活動を行わせ、児童全員が自分の考えをしっかりと表現する機会を設定する。お互いの読みを交流する活動では、言葉や文にこだわって読んでいくと、今まで見えなかったものが見えてくることに気付かせ、国語のおもしろさを感じられるようにしていきたい。

また、単元を通して、場面ごとに大造じいさんの気持ちを日記に表していくようにする。読み取ったことを基に自分の考えたことを書いてまとめることで、自分の読みをより一層明確にし、深めていけるのではないかと考える。

単元の最後では、椋鳩十の作品を読み、紹介し合う。ここでは、作者のものの見方や考え方にふれる楽しさに気付かせ、今後の読書生活の充実につなげていけるようにしていきたい。

5 指導計画（1 1時間扱い、本時は第二次の第6時）

第一次 全文を読み、学習の見通しをもち、感想をもつ。

・・・2時間

第二次 登場人物の様子や気持ちを読み取る。

・・・7時間

次	時	学習活動・内容	指導及び留意点	評価規準
二	1	・物語を読み、人物像や設定場面の展開をとらえる。	・場面ごとにあらすじを一文にまとめ、物語の流れをつかむ。	・物語の設定を読み取っている。 (時・場・人物・事件)
	2	・うなぎばり作戦の時の大造じいさんの気持ちを読み取る。	・「今年も」「今年こそは」といった語句や残雪の呼び方に着目できるようにする。	・大造じいさんの気持ちが分かる言葉を基に人物像や気持ちの変化を読み取っている。
	3	・タニシ作戦での大造じいさんの気持ちを読み取る。	・「ううん」となった大造じいさんの気持ちが作戦の前と後でどう変わったか考えている。	・大造じいさんの気持ちが分かる言葉を基に人物像や気持ちの変化を読み取っている。
	4	・おとりのがん作戦での大造じいさんの気持ちを読み取る。	・「うまくいくぞ」「ひとあわふかせてやる」など大造じいさんの心情を直接投影する描写に着目できるようにする。	・大造じいさんの気持ちが分かる言葉を基に人物像や気持ちの変化を読み取っている。
	5	・残雪の誇り高い態度にふれた大造じいさんの気持ちを読み取る。	・「ただの鳥にたいしているような気がしない」という語句を取り上げ、大造じいさんの心情の変化に着目できるようにする。	・大造じいさんの変容を情景描写や残雪の行動を手掛かりに読み取っている。
			・残雪を見送る大造じいさんの気持ちを読み取る。	・残雪を見送る大造じいさんの気持ちを想像して、その思いを日記の形式で書き、大造じいさんの気持ちをとらえることができるようにする。

第三次 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を振り返り、作品の主題について考える。

・・・1時間

第四次 椋鳩十の他の作品を紹介し合う。

・・・1時間

6 本時の学習

(1) 目標

情景や会話を手掛かりに、残雪をいつまでも見送る大造じいさんの気持ちを読み取ることができる。

(2) 準備・資料

掲示用教材文、自作ノート、挿絵、振り返り用掲示物

(3) 研究テーマとの関連

教師の発問があって、初めて文章に反応するのではなく、たとえ浅くても自分なりに読み取ることが大事なことだと考える。だが、どのようにすれば自分の力で読み取れるのか分からない児童が多い。そこで、次のような観点を基にノートに読み取ったことを書き込ませておくことにする。

いい言葉、いい表現だと思ったところはないだろうか。
意味が分からないのでみんなに質問したいところはないだろうか。
様子をはっきりと浮かんできたところはないだろうか。
人物の気持ちがよく分かったところはないだろうか。
心に強く感じたところはないだろうか。
自分と比べて思い出したところはないだろうか。
主題や作者の考えが分かったところはないだろうか。

読み取ったことを話し合う活動においては、少人数での対話で友達の考えと自分の考えとを比べていけるようにする。友達の意見を聞いて考えたこともノートに書かせるようにし、読みの深まりを自分のノートを振り返ることで自覚できるようにさせていきたい。

学習活動・内容	時間	形態	教師の指導・支援上の留意点
1 前時までの学習を振り返る。	2分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 全体の構造をまとめた掲示物を見ながらあらすじを確認する。
2 本時の課題をつかむ。	2分		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 残雪を見送る大造じいさんの気持ちを読み取ろう。 </div>			
3 学習場面を音読する。 (P 9 8 L 9 ~ P 9 9 L 1 4)	5分		<ul style="list-style-type: none"> 気持ちを込めて音読できる児童を指名して、本時の場面を確認する。
4 大造じいさんの残雪に対する気持ちを読み取る。 (1) ペアで話し合う。 大造じいさんの行動から おりのふたをいっぱいにかけてやりました。 はればれとした顔つきで見守っていました。 残雪・・・おり おとりのがん・・・鳥小屋 情景描写から ある晴れた春の朝 らんまんときいたすももの花が、その羽にふれて、雪のように清らかに、はらはらと散りました。 残雪への呼びかけから がんの英ゆう ひきょうなやり方でやっつけたかあ ないぞ。 また、堂々と戦おう。	20分	ペア	<ul style="list-style-type: none"> 自力読みしたノートを確認する時間をとる。 読みの交流の際には、教師はグループをまわり、話合いが深まるよう助言する。 根拠のない想像にならないようにサイドラインを引いた重要語句を基に話し合わせる。 「いっぱい」という言葉を手掛かりに大造じいさんの気持ちに迫らせる。 これまでも人物の心情が情景描写の中に暗示的に表現されていたことを想起させて、この場面にも心情が分かる情景描写がないか探してみるよう助言する。 「ひきょう」の意味を確認し、今までの残雪との戦いの中で卑怯な戦いはどれだったのか考えさせる。 うなぎばりやタニシ、おとりを使った作戦を卑怯と考える児童もいると予想されるが、これらの作戦は狩人としての知恵であり、「また、堂々と戦おう」の言葉からもひきょうなやり方ではないことに気付かせる。 「やっつける」と「戦う」のちがいに目を向けさせるようにする。
(2) ペアで話し合ったことをもとに全体で話し合う。		一斉	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を聞いて考えたものはあで記入するようにし、読み取りの深まりを見取る。 大造じいさんの優しさにだけ目を向けている場合は「おり」と「鳥小屋」の違いについても話し合わせる。
5 大造じいさんの残雪への思いを日記に書き、発表し合う。 (1) 大造じいさんになりきって残雪への気持ちを日記に書く。	10分	個人	<ul style="list-style-type: none"> 発表の苦手な児童には、ペアでの交流を生かして、友達の考えを紹介してもよいことを助言する。
(2) 日記を発表し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 残雪を逃がすとまたがんがとれなくなるかもしれないが残雪と戦ってみたい。 残雪との戦いが楽しんだ。また、正々堂々と戦おう。 ひきょうなやり方はやめて堂々と戦おうと決めたから心がすっきりした。 おとりのがんのために残雪がケガをさせてしまった。残雪のケガがなあってほっとした。 </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 晴れ晴れとした顔つきで、残雪を見送る大造じいさんの気持ちを日記に書くことができる。(日記・発表) </div> <ul style="list-style-type: none"> 考えをうまく書けない児童には、自分が残雪に話しかけるように書くように助言し、大造じいさんに共感できるようにする。 書き終わった児童は、今まで書いてきた大造じいさんの日記を振り返るようにする。また、さらに時間がある児童には残雪の視点から日記を書いてみるようすすめる。
6 本時の学習を基に音読する。	5分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことを振り返りながら音読して、本時のまとめとする。
7 次時の学習を確認する。	1分		<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習したことを次時の物語の主題をとらえる学習に生かすよう伝える。